



令和元年度
教育委員会事務点検・評価報告書

2020年6月

井川町教育委員会

はじめに

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが定められました。

本報告書は、第 26 条の規定に基づき、本町教育行政の充実発展を目指すとともに町民への説明責任を果たすため、達成度を評価したものです。

第二十六条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委託された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評価スケジュール

- 2 月 教育委員及び事務担当の自己評価
- 3 月 外部評価委員へ評価の依頼
- 4 月 評価結果のまとめ及び教育委員会定例会で評価を議決
- 6 月 評価結果を 6 月議会に提出
- 7 月 評価結果の公表（井川町ホームページ）

対象事業

- ・教育委員会が直接関与している事業或いは活動している事業を「教育委員会の活動状況」とします。
- ・教育委員会が管理・執行している事務事業や教育長に委任している事務を「教育委員会における事務の管理・執行状況」とします。

点検評価基準

A	達成している ねらいに沿った具体的成果が表れている
B	おおむね達成している 具体的な成果が表れているが改善の余地がある
C	達成していない 事業の見直しを含めた検討が必要である

外部評価委員について

点検・評価内容の客観性を確保するため、教育に関して学識を有する外部委員に意見と総評をいただきます。外部委員には、平成 31 年教育委員会 4 月定例会で石井昭廣氏（八幡）を議決し、昨年度に引き続き今年度も評価をいただきました。

月	開催日	審議内容
8月定例会	8月26日(月)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「井川っ子元気プラン」(案)について協議した。 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度全国学力学習状況調査結果について ・8月の教育委員会主催事業について ・全県市町村教育委員会教育長会議について ・件市町村教育委員会連合会総会について ・映画「ミステリーサークルチルドレン」について ・町教委、公民館、学校関係行事予定について ・大会等の結果 ほか
9月定例会	9月30日(月)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井川っ子元気プラン(案)について協議した。 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町議会9月定例会について ・井川町教育委員の任命について ・井川夕学の会について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について ・各種大会等の結果について ほか
10月定例会	10月28日(月)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井川っ子元気プラン(案)について協議した。 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校記念行事について ・静岡県吉田町、茨城県守谷市等視察結果について ・放課後拡充カリキュラム(案)の進捗状況について ・食物アレルギー対応マニュアルの修正について ・義務教育学校のいじめ対応状況について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について ・その他 ほか
11月定例会	11月25日(月)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度教職員人事構想について協議した。 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度教育支援委員会について ・市町村教育委員会連合会研修会について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について ほか

月	開催日	審議内容
12月定例会	12月23日(月)	<p>【議決事項】 (第10号)井川町学校林経営条例の一部を改正する条例(案)について原案どおり議決した。 (第11号)井川町井川義務教育学校管理規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。</p> <p>【協議事項】 ・令和2年度教育委員会関連予算要求について内容を協議した。</p> <p>【報告事項】 ・12月井川町議会定例会について ・映画「みんなの学校」上映会について ・今戸願人踊り発表会について ・義務教育学校の進路状況について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について ほか</p>
1月定例会	1月27日(月)	<p>【議決事項】 (第1号)井川町教育委員会公印取り扱い規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。</p> <p>【協議事項】 ・義務教育学校ICT環境整備について協議した。 ・学校管理規則改正(案)について原案を協議した。</p> <p>【報告事項】 ・令和元年度秋田県学習状況調査結果について ・令和元年度全国体力・運動能力調査結果について ・義務教育学校の進路状況について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について</p>
2月定例会	2月25日(火)	<p>【議決事項】 (第2号)井川町立井川義務教育学校管理規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。 (第3号)井川町スポーツ賞授与規定の一部を改正する規程(案)について原案通り議決した。 (第4号)義務教育学校卒業式告示(案)について原案を一部修正して議決した。</p> <p>【報告事項】 ・義務教育学校今年度の成果と課題(校長より報告) ・旧井川小学校改修計画策定業務報告書について ・義務教育学校児童生徒社会性調査結果について ・社会教育委員の会議「今後の成人教育のあり方について(答申)」 ・義務教育学校の進路状況について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定について</p>

月	開催日	審議内容
2月臨時会	2月27日(木)	<p>【議決事項】 (第5号) 令和2年度学校人事異動の内申について原案どおり議決した。</p> <p>【協議事項】 ・学校の卒業式および修了式について協議した。 ・「いかわ夕学の会」の延期について協議し延期を決定した。</p>
3月臨時会	3月7日(土)	<p>【報告事項】 ・新型コロナウイルスに関連した臨時休業中のスケジュールについて</p>
3月定例会	3月30日(月)	<p>【議決事項】 (第6号) 井川町スポーツ交流館規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。 (第7号) 井川町民武道館条例施行規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。 (第8号) 招致外国青年就業規則の一部を改正する規則(案)について原案どおり議決した。 (第9号) 義務教育学校入学式告辞(案)について3か所を修正して議決した。 (第10号) 令和2年度教育委員会職員人事異動に係る内申について原案どおり議決した。 (第11号) 令和2年度準要保護児童生徒の認定について原案どおり議決した。</p> <p>【協議事項】 ・令和元年度教育委員会事務点検・評価報告書について協議した。</p> <p>【報告事項】 ・新型コロナウイルス対策に係る学校と社会教育施設の対応 ・義務教育学校の進路状況について ・教育委員会、学校等関係行事予定について</p>

(2) 井川町総合教育会議

開催日	案件
11月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「井川っ子元気プラン」について ・意見交換 ※ 来年度から実施するプランでの学力向上、ICTの充実、体験活動の充実等についての議論が行われた。 ・その他

(3) その他

- ・義務教育学校授業参観 (5月28日、10月28日)
- ・井川町教職員研修会 (第1回4月2日、第2回8月24日、第3回1月10日)
- ・諸行事参観 (入学式、運動会、中総体、学校祭、開校記念行事)

2 教育委員会における事務の管理・執行状況

(1) 学校教育

理念	重点	到達目標 (□) と結果 (※)	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとつづくり	学力の向上	<input type="checkbox"/> 対話や討論のある授業が展開されている。 ※ 対話は全校的に展開されている。討論については一部では行われているが、多くの授業では至っていないなど目標は未達成である。 <input type="checkbox"/> 授業がよくわかる (全校平均3.3以上) ※ 全校平均3.3と目標は達成された。 <input type="checkbox"/> 学力調査が県平均を上回る。 ※ 12月実施の県学習状況調査で4年生から8年生までの平均が県平均を3.2P上回るなど目標を達成した。	《職員研修への外部講師派遣》 日大渡部教授を年3回招聘し、教員を対象にアクティブラーニングを中心とした研修を行った。また5年生以上と町民50名を対象に講演会を行い、外国の授業と日本がいかに向かい合っているかについて具体的に講話をおこなった。実践にはまだつながっているとはいえないが、渡部教授の理念を実際に生かそうという機運は高まっている。 《学習支援員の配置》 今年度より教員を退職した事務局の臨時職員を7年生以上の数学でTTとして支援を始めた。始めは効果的な支援とは言えないところもあったが、徐々に役割分担をして成果が出てきている。 《秋田魁新報の5年生以上の教室への配付》 各学年で「新聞切り抜きコーナー」や帰りの会等での記事の発表などのほか、授業でも活用が進んでおり、効果的な取り組みとなっている。 《図書カードの贈呈や学校図書館図書費の充実》 図書カード(5千円)を町内児童生徒全員(250名125万)に夏休み前に贈呈した。追跡調査では児童生徒の5割が夏休み前に図書を購入するなど、読書意欲の向上に寄与している。また学校図書費も児童生徒数の減少にかかわらず額を維持しており(令和元年度93万円)、町として継続して読書活動を支援している。 《教育委員会による学校訪問と指導助言》 月例の教育委員会を年3回学校で開催した折、全学級を参観しているほか、年14回開催した校内授業研究会には、そのほとんどを参観して指導や助言についてメモ等で教員に伝えてきた。指摘についてすぐには改善できないことが多いが、今後ともこまめに継続して粘り強く授業改善を促していきたい。	A
	社会性の伸長	<input type="checkbox"/> 他者と協力して諸問題の解決に向け判断し行動しようとする。 ※ 今年度の社会性調査で積極性の全校平均が3.2/4となった。次年度から比較して達成状況を見る。 <input type="checkbox"/> 地域のための積極的に活動しようとする。 ※ 12月実施の県学習状況調査で、4年生から8年生までの肯定的回答が88%で県平均91%を下回っており、目標は達成されていない。	《三陸震災列車の実施》 今年度のいのちの教育あったかエリア事業を活用し岩手県に1泊2日の行程で、5年～8年生21名が参加し防災学習を行った。参加した子どもたちは学年を超えた縦割り班での宿泊や学習、生活面でも大きな体験をし、震災を忘れず命の大切さを学びました。 《動物ふれあい学習の実施》 今年度のいのちの教育あったかエリア事業を活用し、秋田県動物愛護センター「ワンニャピアあきた」、大森山動物園に1年～4年生43名が参加しふれあい体験学習を行った。参加した子どもたちは小さな命の大切さについて動物の心音を聞く体験や、飼育の裏側などを見学し命の大切さを学びました。 《プログラミング体験講座の実施》 2020年度から始まるプログラミング学習を円滑に導入するため、4年～6年生向けのプログラミング体験会を夏休み2回冬休み1回行った。トータル40名が参加しプログラミングソフトや、タブレット端末を使用し楽しくプログラミングを学び増した。 《QUの全学年の実施・社会性測定尺度による社会性調査の実施》 今年度も全校でQU調査を実施したほか、今年度は国立教育政策研究所が作成した児童生徒の自己評価による社会性測定用尺度を参考に、井川町の子どもたちの社会性の状況調査を実施した。今後も各学年の社会性の傾向について継続して調査を実施します。	B
	温かな心・健康な体	<input type="checkbox"/> 生命尊重や思いやりに関する意識が高くなる。 ※ 2年と5年対象の調査「命を大切にしたい」という問いに、7月79%、2月には83%が肯定的に答えるなど目標を達成した。 <input type="checkbox"/> 生活習慣改善への意識が向上する。 ※ 4年～9年対象の「塩分を減らした食事の大切さを家族で相談」の問いに40%がyesと回答。来年度以降の調査と比較する。 <input type="checkbox"/> 積極的に運動する意欲が向上する。 ※ 全国体力運動能力調査から、秋田県平均を上回った学年は9学年中1であり、目標は未達成である。	《いのちの教育あったかエリア事業への支援》 今年度のいのちの教育あったかエリア事業により、日本大学 渡部教授による公開授業講演会、立教大学 野中教授による「夕学の会 昆虫食」、「みんなの学校 映画上映会」、「三陸防災学習」、「ワンニャピアあきた」、「土崎みなと歴史伝承館」、大森山動物園小松園長の講話、町在住者による道徳ゲストティーチャーなど様々な体験を児童生徒と町民向けに行い、町全体で命の尊さ、井川町と日本、世界の違いを学びました。 《八郎水槽事業への支援》 水槽設置及び学校中庭への散水栓の増設を行い、学校周辺をトンボの飛び交うような学校環境作りに取り組んだ。 《町健康教育副読本の活用への支援》 2月に筑波大学山岸先生、大阪大学石原先生、慶応大学佐田先生が来町し、副読本を使用した6年生の授業を視察。また、来年度に向けて副読本の活用についての改善点等の話し合いを学校と一緒にいった。 《町の健診と連携した講座の実施》 循環器検診期間中、4、5、6年生へ対して大阪大学石原先生、慶応大学佐田先生、筑波大学臼杵先生から副読本を活用した特別授業を行っていただいた。実際に塩を用いて量を見ながら、塩分の取り過ぎに注意しなければならない理由について等学習した。 《県医師会と連携した運動の取り組みへの支援》 1年生～7年生を対象に、体育の授業の前の準備体操としてロコモ体操を行っている。トータルおよそ350回行った。流れる曲に合わせて児童生徒が楽しく体操を行っている。 《職員対象のストレスチェックの実施》 義務教育学校教職員の内、県費職員を対象に公立学校共済組合と契約締結し、心のセルフチェックシステムによりストレスチェックを実施した。対象者中46.4%が実施し15.4%が高ストレス判定とされた結果を分析し、今後のストレス解消に向けた取組を実施したい。	B

理念	重点	到達目標 (□) と結果 (※)	具体的取り組み《》と成果	評価
あた た か な 心 夢 と き め く ひ と づ く り	地域ととも にある 充実した 学校	<p>□ 義務教育学校への総合的評価が高まる。 ※ 学校応援協議会による4段階の学校評価で、5項目中Aが3、Bが2となり概ね目標を達成していると結論づけられた。</p> <p>□ 学校応援協議会の提言が生かされた学校運営をしている。 ※ 今年度は協議会としての提言はなかったが、婦人会の町民体育祭への協力の申し出を受けて学校で踊りの講習会が実施された。</p> <p>□ 教職員にとって義務教育学校が資質向上の力になっている。 ※ 2月末調査で24名中23名が肯定的回答しており、目標は達成されている。</p> <p>□ 学校給食の町内産野菜使用率が向上する。 ※ 昨年度81.5%から今年度82.1%に向上しており、目標は達成されている。</p>	<p>《学校応援協議会の立ち上げと広報等の運営の充実》 年4回開催し、学校の運営の方針や課題について話し合ったり、テーマを設けて熟議を行ったりした。今年度よりスタートし、地域の声を学校運営へ反映できる機会が設けられた。また、協議会後は毎回その様子や話し合いの内容を全町に向けて教育委員会だよりで広く広報した。</p> <p>《教育支援委員会による子ども・保護者への支援》 特別に支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができるよう保護者からの希望、町・学校・こどもセンター等の教育支援委員の意見のにより1人1人の教育的ニーズに応じた支援を行った。</p> <p>《幼小連絡会議による接続プログラムの作成》 年2回開催し、こどもセンターと義務教育学校の教育が円滑に接続するよう、取り組みについて協議した。また、交流活動の日程や内容についても検討・協議し、年3回活動を行った。</p> <p>《教職員研修会（年3回）の実施》 4月・1月に放課後拡充プログラムの研修やICT活用に向けた研修を実施した他、今年度は日本大学 渡部教授より2回の教員向け研修プログラムを行った。</p> <p>《学校のWiFi環境の整備》 旧井川小学校からWifiアクセスポイントを4年～9年生の普通教室へ移設を行い、PC教室のノートパソコンでWifi接続を行うことのできる環境整備を行ったほか、体育館と正門へは防災事業により町FreeWifiが整備された。</p> <p>《通学路の安全確保とスクールバスの安全な運行》 今年度は通学路の緊急合同点検を2回行った他、こども110番の家の再構築を五城目警察署等と合同で実施した。また義務教育学校通学路のフェンスも県より改修工事がなされた。スクールバスの運行については今年度は円滑に運行された。</p> <p>《学校給食供給システムの検討と改善》 今年度の地場産率は82.1%で、前年度（81.5%）より使用率は向上した。なお地場野菜納入について学校給食供給部へ参加いただけるよう湖東の野菜畑を通じて会員募集を依頼したが、問い合わせはあったものの参加者増とはならなかった。</p>	A
課題と今後の方向		<p>学力向上への支援については、実態把握を丁寧に行い授業改善を一層促す必要がある。新たな調査の実施や外部講師の招聘などを引き続き取り組みたい。また体験活動についても子どもたちにも好評だった事業を継続して行うとともに、学校で実施している活動の一層の充実を図るため、例えば修学旅行等についても教育委員会も含めてそのあり方と方法について検討する必要がある。</p> <p>一方、健康や運動については課題が山積しており、早急な対応を検討する必要がある。</p> <p>地域との連携については学校応援協議会を核に今後も充実させていきたい。</p>		

(2) 生涯学習

理念	重点	到達目標 (□) と結果 (※)	具体的取り組み《》と成果	評価
<p>あたたかな心 夢ときめく</p>	<p>豊かで楽しい学習 機会の保障</p>	<p>□ 各種事業の満足度が向上する。 ※ 高齢大学移動研修では95%が満足、 放課後子ども教室では100%が満足と回答し、 目標を達成した。</p> <p>□ 参加者の減少に歯止めがかかる。 放課後子ども教室では参加者が増加したが、 高齢大学では12名の減、移動公民館といきいき 町民セミナーの参加者も半減し、 全般的に減少に歯止めがかからず、 目標は達成できなかった。</p>	<p>《社会教育委員の会議・公民館運営審議会》 社会教育委員の会議を2回、公民館運営審議会を1回実施した。「井川町の今後の成人教育のありかたについて(答申)」で現状の成人・高齢者教育について意見を頂くことが出来た。</p> <p>《高齢者大学》 参加者は大学課程6名、大学院課程9名、博士課程9名、研究生26名の計50名が在籍し、課題別学習や講演会、移動研修など計11回実施した。年々在籍者が減少しており、今年度は昨年に比べて12名の減となっている。</p> <p>《移動公民館・いきいき町民セミナー》 8月に開催した移動公民館には16名が参加、由利高原鉄道を楽しんだ。11月に実施した第一回いきいき町民セミナーには13名が参加し、三郷町を訪問した。なお3月実施予定の第二回はコロナウイルス感染防止のため中止しています。</p> <p>《放課後子ども教室・夏冬のこどもまつり》 放課後子ども教室では、地域の人たちを講師に招き、盆踊り講習会、英語教室、算数教室、ハーバリウム作成を行った。子ども対象のアンケート調査の結果、満足度は100%であった。事業の後半は一定数の参加児童を確保した。(15～30名ほど)昨年度より平均参加児童数は増加した。</p> <p>《生涯学習奨励員の活動》 奨励員は10名を依頼、生涯学習奨励員会報「やまどり」を年3回発行。県及び地区協議会(男鹿潟上南秋)事業や研修会に積極的に参加した。今年度は中央地区放課後支援者研修会の講師としての活動もあった。</p>	<p>A</p>
<p>ひとつづくり</p>	<p>地域の教育力向上への支援 教育力向上への支援</p>	<p>□ 家庭教育支援の事業が充実する。 ※ 事業は新入生への講座だけにとどまり、 目標は達成できなかった。</p> <p>□ 公民館図書室の利用者数が増加する。 ※ 昨年度に比べ8人増加し、目標を達成した。</p>	<p>《読書活動や家庭教育支援での学校等との連携強化》 家庭教育支援事業では就学時健診時に保護者を対象に家庭教育講座を実施した。それ以外については実施できなかった。</p> <p>《子ども教室の多様な講座や取り組みへの支援》 放課後子ども教室のほかにくわく土曜教室も今年度から開催した。写真教室、パッチワーク教室、安来節体験、バターナイフ作り、おもしろ実験教室である。放課後子ども教室同様、地域の方に講師になっていただき、様々な体験活動を行った。</p> <p>《図書室の貸し出し数等と広報や展示の工夫》 公民館図書室貸出冊数は745冊、利用者数は263名で、昨年度に比べ冊数は28冊の増、利用者数は8名の増である。新刊図書は立体展示で利用者に見やすいように配慮をした。</p> <p>《花植え活動など世代間交流の充実》 6月に義務教育学校生徒と老人クラブによる地域花壇花植を実施。お互い笑顔で花植をしており、和やかな雰囲気でも交流していた。今後もこの活動を続けていきたい。</p>	<p>B</p>
		<p>課題と今後の方向</p>	<p>放課後子ども教室は様々な講座を開催して参加者も増加するなど内容が充実した。一方で高齢大学や成人対象の事業については参加者の減少が続いている。また、図書室利用も減少した。 こうした現状に対して、今年度の社会教育委員の会議からは高齢者や成人対象の事業について多くの提言をもらった。この提言を生かしながら、来年度の授業の見直しや改善を行う必要がある。</p>	

(3) 芸術文化の振興と文化財保護

理念	重点	到達目標 (□) と結果 (※)	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとつづくり	郷土の歴史・文化の保護・活用	□ 文化財継承の課題解決について方向性を出す。 ※ 今年度の文化財保護審議会で、民俗資料館の運営や町内の文化財保護に町文化財保護協会が積極的にかかわることが確認され、目標は達成された。	《歴史民俗資料館の利用状況と成果・課題》 歴史民俗資料館の来館者は2月末現在で37名であり、昨年度よりも82名の減となっている。特別展が昨年度と同様ということもあり利用者増はできなかった。 《標柱修理の状況と成果》 古くなった町内の文化財にある標柱の修理について、今年度は5本行った。来年度以降も更新を継続していきたい。 《義務教育学校での今戸願人の取り組み》 昨年度に引き続き、12月に今戸願人の指導者や手踊りの指導者が3年生全員に5回にわたって指導を行った。発表会には1年から6年まで全員と町民30名が参観し、3年生は大変優れた堂々たる発表であった。来年度以降も継続して、町の文化を子どもたちに継承していきたい。	A
	芸術文化の振興	□ 芸術文化団体・サークルへの活動支援を充実させる。 ※ 町芸術文化協会への参加団体は20で昨年と同じだが、少子高齢化で活動が縮小している団体もあり、目標は達成されていない。	《芸術文化団体への助成等と成果》 今年度は芸術文化協会へ20万円の補助。「芸文井川」「芸文協だより」を発行。町民文化祭での作品出展・ステージ出演。課題として会員の高齢化で解散する団体も出ている。現会員をしっかりと支援し活動を続けやすい環境を作っていく。	B
課題と今後の方向			文化財保護については文化財保護協会と連携を密にして年次計画を策定するなど、資料館運営の充実と合わせて検討していく必要がある。 文化振興については公民館が拠点となっていることから、情報提供などに一層の工夫を図っていきたい。	

(4) 生涯スポーツ

理念	重点	到達目標 (□) と結果 (※)	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとつづくり	生涯スポーツの振興	□ 各種大会やイベントの満足度が向上する。 ※ 自然ウォーキングで行った満足度調査では満足した人の割合は78%であった。来年度以降、比較していった。 □ 組織の見直しで運営が活性化される。 ※ いかわスポーツクラブの組織を再編したが、活性化までは今一歩であり目標は達成していない。	《各種大会、チャレンジデー、自然ウォーク、井川マラソンの実施状況と成果》 町民体育大会(入場行進点数からのデータH30 464人R1 451人)、自然ウォーキング(35人前年比-19)、町民野球大会(4チーム前年比-1チーム)、井川マラソン(79人前年比-15人)、全町卓球大会(22人前年比+0人)、バレー・ソフトバレー大会(18チーム前年比-2チーム)バスケット大会(15チーム前年比+3チーム)、各大会とも滞りなく実施した。町民大会は午後から天候に恵まれず途中で中止となってしまったが内容はスムーズに進行していた。ただし参加者が固定化し、人数も減ってきていることから、スポーツ大会全般の見直しや縮減、参加枠の見直しが必要である。 《いかわスポーツクラブの再編》 今年度、各スポーツごとのスポーツ少年団に分かれての活動が中心となっていたいかわスポーツクラブについて、規約を改正してより現実にあった運営を目指そうと、昨年末と今年度初めに総会を開催した。 この中で、スポーツクラブの趣旨である他種目のスポーツに親しむことを確認し、町主催のスポーツ大会に各スポーツ少年団が積極的に参加することを申し合わせ、マラソン大会には多くの団からの参加があった。 《学校スポーツの充実》 今年度義務教育学校グラウンドに走り幅跳び場を設置し、体育種目の拡充を図った。また、夏場の水泳についても、スクールバスを活用し、旧井川小学校町民プールでの授業を実施した。	B
	課題と今後の方向			スポーツ大会への参加者の減少が続いている。社会教育委員の会議の提言どおり、町民の要望を調査したり満足度調査を拡大したりして前年踏襲を一步でも打ち破る必要がある。また大会の運営については公民館主催から団体や町民有志などに移行させることを視野に、そうしたグループづくりなどを行っていく必要がある。

3 外部委員評価 (石井 昭廣氏)

【学校教育】

- ア 教育の理念や目標は、校歌にみられる故郷の自然やくらしを通し、思いやる力、学び合う力などのバランスある生き方をめざしている。
- イ 授業は、心技体知の感動を与える表現を問う探究型授業の構築、そのための研修を進め実践している。
- ウ 小中一貫教育の望ましい組織の中で、地域環境のよさを生かした、自分らしさや日本人らしさの学習に努めている。
- エ 学校並びに教育設備など、教育環境の整備を進め、活用を工夫している。
- オ 自分の命を自分で守る防災教育とネット社会の在り方、情報活用能力の育成などメディアや学校適応の視点の理解が大切である。

【生涯学習】

- ア 生涯学習の運営体制の見直しや各種団体への自立支援等は、おおむね成果が見られる。
- イ 学習者の年代に応じた学習機会の支援がよく行われている。内容と人員の外部支援など、地域の価値や時代の変化に合わせた見直しも求められる。
- ウ 核家族化、子どもの少人数化等、縮小社会の人員の活躍は貴重であり、高齢化とともに引きこもりがちな家庭への働きかけは一層大切になると思われる。

【芸術文化の振興と文化財保護】

- ア 芸術文化活動、歴史と文化財保護、継承、活用等、少ない人数ながら企画運営がよく実施されている。
- イ 各種事業への参加者数の状況、高齢化による活動人員の減少は今後も課題であると思われる。
- ウ とすれば予算の縮減が活動の低下につながることを考えると、人員と予算、活動の見直しが必要であると思われる。

生涯スポーツ

- ア 生涯スポーツは、健康増進、人格形成、人と人との交流として大切であり、計画的によく実施されている。
- イ 学校スポーツ、スポーツクラブは、現状に見合った再編とともに適切に設置され、十分目標を達成していると思われる。
- ウ 町民の人員、年齢差、志向の多様性から考えると、運営や参加について一層の工夫が必要であると思われる。

【総合評価】

- ア 教育基本計画は多方面から練り上げられており、各種教育団体がよく事業を推進している。
- イ 日本文化や町の隆盛は、未来の子どもたちや若者に託すよりない。日本人らしさは、ことば、あいさつ、思いやりなど道徳倫理の基盤を失わないこと、人として行うべきみちを会得しているかである。井川の文化活動はその道のりを歩んでいると信じる。
- ウ 「学校は地域社会が、子どもは大人が支える力となる」われわれ地域社会の発奮が期待される。